

『時間がない』、実は自分で忙しくしているだけです

長時間働いているのに、期待成果を出せない人がいます。決して、サボっているわけではありません。むしろ、他の社員より一生懸命働いている場合があります。働き方改革を定着させなければいけない今、長時間労働は改善が必須です。しかし、業績を下げてよいわけでもありません。

では何故、一生懸命かつ長時間働いているのに、成果が出ないのでしょうか。まず、知識不足・能力不足が考えられます。

しかし、一定以上の知識や能力、さらには経験もある中堅・ベテラン社員でも同傾向の人がいます。そういう人に共通しているのは、“時間の使い方が上手くない”ことです。

時間の使い方は下図に分類ができます。

	緊 急	緊急でない
重 要	第一領域	第二領域
で重 ない要	第三領域	第四領域

時間に追われている人は“第一領域”にほとんどの時間を費やしています。

しかし、実は第二、第三、第四領域の事柄を、第一領域と“錯覚”している場合が少なくありません。つまり、客観的に見れば、緊急・重要ではない事柄を第一領域と思い、そこに時間を割いてしまうのです。その結果、時間をかけても期待成果が出ないのです。

第一領域の錯覚例
受注できる確率がほとんどない見積もりを詳細に作成
他の人に任せられる業務を自分が行う
オーバースペックの企画書・提案書作成
リサーチ不足で作成する企画書・提案書（結局、作り直しになる）
今じゃなくてもよい電話・メールでも良い電話
長すぎる電話、打ち合わせ
効率の悪い移動（例：同一方面に2日続けて訪問）
電話・メール・リモートで済む案件でも訪問

リモートワークが多くなった今、よりこの錯覚に気がつきにくくなっています。

では何故、このような錯覚が起こるのでしょうか。それは“目的意識の希薄さ”です。つまり、目標必達意識の弱さです。人間は強い目的意識があるとき、時間の使い方が効率的です。

弊社では、時間の使い方を棚卸しし、具体的な錯覚に気づいていただき、時間を創出するお手伝いを行っています。また、それを通じ、目標必達姿勢も強化も図っております。是非、ご興味・ご関心のある方は下記までご連絡下さい。



> お問い合わせはこちら